

リーダーとは、後ろを振り返ると、人がついてくる人
ーリーダーとは何か、リーダーの条件を考えるー

開倫塾
塾長 林明夫

Q：リーダとはどのような人だと考えますか。

A：「リーダーとは、後ろを振り返ると、人がついてくる人」だと考えます。ただし、なかなかわかってもらえず、最初は、ついてくる人がゼロかもしれません。

Q：どのようにすれば、「後ろを振り返ると、人がついてくるリーダー」になれるですか。

A：(1)チームのメンバーや、関係する皆様に、「学んだことを自分のことばでいえる(表現・説明できる)」ように、大切と思われることをしっかり勉強し、「深く理解」することです。

(2)リーダーの「役割」「社会的使命(ミッション)」は、そのチームの「目的」「目的地」「ゴール」をしっかり示すことです。

(3)同時に、その目的を達成するための「手段」「順序」「手順」「プロセス」を、具体的に、しっかり示すことです。X という出発地(今いる場所)から、Y という目的地(ゴール)に到達するために、どこを通過していけばよいのか。現在地の X から出発し、最初に A を目指す。次に、B を目指す。さらに、C を目指す。そして、最終目的地であるゴールの Y に到着する。

(4)このようにリーダーは、現在地 X から、A → B → C という場所を経て、目的地の Y に到着するというのを、チームのみんなによく説明し、納得してもらい、自分から進んで、本気で行動してもらわなければなりません。

(5)ですから、リーダーとして一番大切なのは、何のために目的地に向かうのか、そのために、どこを通っていかなければならないのかを、メンバーにしっかりと、「自分のことばでいえる(表現・説明できる)」ことです。そのために、しっかり勉強することです。

(6)同時に、「メンバーへの伝え方」も工夫しなければなりません。

Q：え、「メンバーへの伝え方」とは、どういうことですか。

A：(1)リーダーはもともと「偉い」とみんなから思われているのですから、「上から目線」の「いばった」ことばづかいはいらないこと。リーダーは、「決して、いばらないこと」。いばったらリーダーでなくなります。できるだけ、「ていねい、親切、わかりやすく、具体的に話す(表現・説明すること)」です。

(2)「気がかりなことは何ですか」と、必ず、メンバーの意見を聞くこともお忘れなく。

(3)「意見は自由」「どんなに耳に痛い」ことをいわれて腹が立っても、「耳に痛いことを教えてくれる人は、尊い人」と、「心の中で感謝」し、「耳に痛いことを踏まえたうえで、考える」。様々な意見を聞き、そのうえで「リーダーとして、何をどうするかを決定し、行動」する。「責任は、リーダーがとる」。

Q：「リーダーの条件」とは何ですか。

A：(1)「今、自分たちはどこにいるのか、自分の立場をよく知ること」が第一。

(2)自分たちが向かうべき「ゴールはどこか」「通過点」はどこか、「目的を達成するために、何をしたらよいか」を、リーダーは、絶えず考えていること。

(3)リーダー自身の能力(スキル)を、絶えず向上させること。メンバー一人一人の能力(スキル)をアップするにはどうしたらよいか、考えること。

(4)そのために、リーダーは、自分の特徴・長所・潜在能力とは何かを、自分自身に問いかけ、自分の力で見出し、誰に遠慮することなく、どんどん引き伸ばすこと。

(5)同時に、リーダーは、メンバー一人一人に声をかけ、励ますこと。リーダーは、メンバー

一人一人の特徴・長所・潜在能力を見つけ、高く評価。言葉に出し、褒め、励まし、やる気にさせること。

(6)リーダーとして一番大切なことは、「元気なあいさつ」です。リーダーとしての「元気なあいさつ」で、一番大切なことは何か。「元気なあいさつは、リーダーからすること」です。

Q：最後に一言どうぞ。

A：(1)「リーダーとしての心得」の一つに、「サーバント・リーダーシップ」があります。「サーバント」とは、「執事・召使い(めしつかい)」です。「リーダーは、メンバーの執事・召使い」。「メンバーが困っていることは何か」をいつも気づかい、「メンバーの立場で考え、行動する」「手柄はすべてメンバーに、責任はリーダーがとる」。

(2)「リーダーとしての心得」の一つに、「ヘッダーシップ」もあります。「ヘッド」には、「素晴らしい仕事ができる人」という意味もあります。しかし、「素晴らしい仕事ができる人」の多くは、「仕事熱心で、仕事に全精力を集中し続けているため、他人に自分の仕事を教えるのが下手」な人が多いようです。「ヘッダーシップ」とは、「素晴らしい仕事ができる人が、同時に、リーダーシップが発揮でき、チーム全体を目的地に導くことのできる人」です。目指すべきは、「サーバントリーダーシップ」と「ヘッダーシップ」を兼ね備えた人かもしれませんね。

(3)一人で物事に取り組む人は、「自律的に行動する能力」を身に付け、「自分自身が、自分のリーダー」にならなければなりません。

＜ご参考＞「リーダーシップの参考書」

おすすめのNo.1は、中国、唐の時代の繁栄を築いたといわれる、大宋の教えをまとめた、「貞観政要(じょうがんせいよう)」という本です。北条政子、徳川家康、明治天皇などが読まれたと伝えられています。江戸時代、徳川家康の命で、足利学校で改版(出版)され世に広まりました。講談社学術文庫や、図書館にある明治書院刊の新釈漢文体系で読めます。

○入門書：谷沢永一・渡部昇一著「貞観政要、上に立つ者の心得」致知出版社、「貞観政要を読まなかった織田信長や豊臣秀吉の政権は短命に終わり、貞観政要を読んだ、北条政子や徳川家康の政権は繁栄を築いた」「帝王学の名著、貞観政要」。

是非、チャレンジを！！

////////////////////////////////////

以上は、CRT ラジオ栃木放送、「開倫塾の時間・林明夫の歩きながら考える」2026年5月30日(土)午前9時15～25分、放送内容資料です。番組収録は、CRTで5月27日(水)9時30分に行いました。

○中学校や高校、大学や大学院で「キャリア教育」「仕事とは何か」の講演をさせていただくときに、今回の「リーダーシップ」の内容をご説明いたします。ご参考まで。

////////////////////////////////////